

# アクセルを踏むな、ブレーキを緩めよう。

ISO マネジメントシステム規格とライフマネジメント



## 4月25日東北工業大学でISO 14001:2004 認証取得の記念講演

ISO のシステム規格に共通な基本構造は P-D-C-A のサイクルをまわすこと、すなわち 方針管理 目標の設定 実行計画 自己チェック (監視測定と分析) 経営者のレビューによる継続改善のサイクルを回しながら成果(パフォーマンス)をあげていくことです。環境マネジメントシステム規格 ISO 14001:2004 は 是正よりも予防 環境汚染予防を「技術開発」によって実現すること。そのための規格を開発する (煙突の出口・排水口の出口を管理する時代は終わった:1992-リオサミットへの提言) という基本的な考え方で作られました。技術開発というのは自然科学技術だけではなく、社会科学技術も重要です。例えば分別とか混合物の分離の技術が発達しても、流通というシステムが機能しなければリサイクルは出来ないのです。また、顧客満足 (ISO 9001:2000) も現在の顧客を満足させるのは当然ですが 将来の顧客のニーズをつかむ (コミュニケーション・情報システム・日常の監視測定と分析がそのツール) ことが将来の技術開発に欠かせない要素です。

大学という組織の使命は何か、基本的には 研究開発、学生の教育、社会貢献(公開セミナー、受託研究、特許開放・・・)などがあげられます。

研究開発・教育マネジメントにも P-D-C-A があります。

研究開発・教育方針  
 研究開発・教育目的及び目標  
 研究開発・教育の実施手順  
 研究開発・教育の成果の確認  
 研究開発・教育の改善

学生側からの視点で ISO 14001:2004 の意図を拡大して見ますと

学生生活をどのように送るのか  
 将来の夢 (方針・目的・目標)  
 在学期間中に達成すべき計画  
 成果を生かす仕事の選択  
 社会への関心 (例えば環境問題)  
 広い視野 (監視測定・情報)

というスキルを養成することによって、大学からシステム志向を持った人材の輩出という目的が達せられます。

マネジメントシステムを動かすには自由な発想と How to から Why へが非常に重要です。(情報) information は inform (フランス語のアンフォルメ:すべての定形を否定) と -tion (結果) ですから大学の「・・・情報学科」は自由な発想と How to から Why へ。そしてその中から何らかの「結果」を出すことを学生さんに学んでもらうことが重要なのでは?

多くの認証取得組織の経営層は後日必ず意識が変わりましたモチベーションがあがりましたとおっしゃいます。これらの持つ意味について考えて見ましょう。

すべての成功 (パフォーマンス向上) の鍵は目標設定にある

目標設定によって「変わること = 変革」を意識する

潜在意識は「変わることを嫌う = 現状維持」  
 目標達成によって潜在意識に「変わっていくことが = 現状」であることを教え込む

というのは多くの先人たちの言われる真実です。

「モチベーションが上がった」というその内容は、「MOTIVE」(モーティブ): 動機、理由、目的です 「ACTION」(アクション): 行動、活動です。ですからモチベーションとは「目標を目指した行動」であって、

「モチベーションが上がったの意味」は、単なる“元気”や“やる気”や“テンションが高い”状態ではなく(それだけだとすぐにしぼんでしまいます。何度も経験があるでしょう。潜在意識は変化を嫌うのです)「目標を目指した行動」であり、「目標へと向う推進力」なのです。

太っている人は「現状」が太っていて潜在意識にとって見れば変わらなくて問題はないから太っているのです。

貧乏な人はそれが「現状」で潜在意識さんは別に問題なく生活していればそれでいいから貧乏のままなのです。

彼女や彼氏がいない人はそれが「現状」で特に支障が無ければその方が潜在意識さんには好都合です

止まっている車はそれが「現状」ですから動かすにはアクセルを踏みエネルギーを供給しなければなりません。それにはものすごいエネルギーが要るのです。しかも潜在意識は現状維持が好きですからブレーキをかけたままです。一時的な“テンションが高い”状態になってもブレーキはかかっていますから動かないどころか下手をするとスピンしてしまいます。アクセルを踏まないでもブレーキを緩めるとギアさえしに入っていれば(ギアをしに入れることは、目的達成の最初のプロセスです)自然に車は動き出します。潜在意識は動き出した車を「現状」と認識すると、今度は止まることを嫌い、動くことを催促してきます。黙っていてもアクセルを踏むように仕向けます。このように、モチベーションとは「行き先が決まったからこそ出た“やる気”」と言うこともできます。

新日本認証サービス株式会社 (NJC) はアイルランド認定協会 (INAB) から認定を受けている Certification Europe Ltd. (CEL) との提携により審査をしています。

トピックス・お知らせ

東北工業大学が ISO 14001:2004 の認証取得今年も6月に JICA 研修のお手伝いをします  
お客様の日は9月5日大阪で。今年も ISO と経営法則のひとつ「ランチェスター法則」を考えます。すばらしい講師をお呼びしますのでお楽しみに・・・

私の尊敬する P.J.マイヤーさんは「成功とは、自分自身にとって価値ある目標を前もって設定し、段階を追って実現することである」と定義しています。達成とは目的地そのものではなく、そこに至るまでのプロセスだということなのです。

人生のすべての分野で、より明確な目標を設定する

成功のための、明確な行動計画を立てる  
チャンスに対する、積極的な心構えとねばり

目標を達成するために、必要な力量・技能を身につける

ことを教わりました。とても難しい課題ですが、ここまで来ると、「どのような力量を必要とするか」が特定できます。そうすると力量を持つ為に「どんな訓練をしたら良いか」がわかってきます(訓練のニーズが明確になる)のです。

いかがですか? ISO 14001:2004 の規格要求事項どおりだったでしょう?

学生時代に学んだことで「ムダ」は一つありません。WHY さえ考えればです。

多くの方は学んだことを HOW TO にしがちです。ISO 14001:2004 の規格要求事項をどのようにするかは組織が決めることですが「どのように」は、規格要求事項がなぜそう言っているのか「WHY」が判らなければ出てきません。WHY が判って HOW TO がわからない人はありえません。たとえ時間がかかっても WHY がわかればそれに沿った行動を始めます。そうすると潜在意識は HOW TO の答えを出してくれるようになります。人間はそのように作られているのです。

東北工大のすべての皆さんが ISO 14001:2004 の規格原文(出来れば英文)を是非読んでみてください。

そう、ブレーキを緩めれば車(システム)は自然に前に進みます。



(植崎建志)



# 新日本認証サービス株式会社

〒541-0053 大阪市中央区本町1-5-7 西村ビル704

電話 06-4964-6881 FAX 06-4964-6882 <http://www.njc-jp.com>

当社へのご連絡・このコラムへのご意見は [njc-cel@nifty.com](mailto:njc-cel@nifty.com) へどうぞ

## Certification Europe Ltd.

157 Thomas Street, Dublin 8, Ireland